

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや
ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
会長 鈴木理之
幹事 三好親
会報・雑誌委員長 加藤重雄

No. 9

ロータリーを祝おう

100年の歩み

CELEBRATE ROTARY

100 Years 2004~2005年度 RI会長 グレンE.エステス・シニア

9月は新世代のための月間です
「各ロータリアンは青少年の模範」

きょうの例会
第1058回 平成16年9月28日(火)

友愛の日

先週の記録
第1057回 平成16年9月17日(金) 晴
秋季家族会
(歌舞伎観劇) 於：御園座

◆出席報告

会員	67(58)名	出席	26名
出席率	44.83%		
前々回	9月7日(修正出席率)		93.10%

◆ビジター数 (9/21) 65名

鈴木(理)会長挨拶

今年度初の家族会に皆様ようこそお越し頂きました。
本日は歌舞伎界で大変人気の市川海老蔵観劇を取り
計い、早くから受付をして頂きました幹事・親睦活動
委員会の皆様ありがとうございました。

この処、事件が多く気持ちがすさみがちの世の中、
今宵ひととき、江戸の雅びで粋な文化をお楽しみ下さ
い。

三好幹事報告

1. 本日はお忙しい中、会員26名、ご夫人16名、総勢
52名の方にご出席頂き盛大に開催する事が出来まし
た。
2. 次回例会は28日(火)で、21日は本日の変更となり
ますので、お間違いの無いようお願い致します。

小杉親睦活動委員長 挨拶

多数のご出席ありがとうございます。
お食事は一幕目終了後、2階みその食堂にご用意し
てありますので先程パンフレットと一緒にお渡ししま
した食券は失さないようお持ち下さい。
それでは、ごゆっくりとお楽しみ下さい。



一幕目の“熊谷陣屋”の後は今回の見所「口上」と
なり緋もうせんに役者が髪に紋服、袴姿で一同に並び、
市川新之助改め十一代目市川海老蔵の襲名に華を添え
る祝いが述べられると、本人より挨拶と締めくくり
に成田屋に代々伝わる「にらむ見得」がきられ、場内
からは盛んに掛け声がかかり、これからの歌舞伎界を担
う襲名披露となりました。

又、“助六由縁江戸桜”は成田屋の十八番のひとつ。
團十郎休演の為、父子競演は見られませんでした
が若手花形、菊之助の艶やかなおいらんや、歌舞伎にな
じみがなくても楽しめる尾上松助の名古屋弁も飛び出
し笑いもあり当代きっての豪華な顔ぶれが勢揃いの舞
台に堪能した一夜となりました。

先々週の記録

第1056回 平成16年9月14日(火) 晴

◆“それでこそロータリー”

◆出席報告

会員	67(57)名	出席	47名
出席率	82.46%		
前々回	8月31日(修正出席率)	96.55%	

◆ゲスト紹介

愛知県美術館 館長 市川 政憲様

三好幹事報告

1. 本日例会終了後、理事役員会を開催致しますので理事役員の方は2階オーキートルームにお集まり下さい。
2. 次回例会は17日(金)秋季家族会で午後3時30分御園座3階みその食堂にて開催致しますので21日(火)の例会はございません。
尚、当日出席の方はチケットをお忘れのないようお持ち下さい。

鈴木(理)会長挨拶

先週のウエスティンナゴヤキャッスルにて6RC合同のガバナー公式訪問に多数ご出席いただき例会前の懇談会には三好幹事と出席致し、ガバナーからは「万博」への協力と「職業奉仕」がロータリーの原点であり支障の無いような活動を行って下さいとのお話で無事終了する事ができました。

本日は芸術の秋にふさわしく愛知県美術館の市川政憲館長にお話を伺う事になっております。

芸術の秋といえば17日(金)は親睦活動委員会の企画で十一代目市川海老蔵襲名披露の歌舞伎の観劇となっております。

歌舞伎では役者を「立役」と「女形」に大別しており、市川團十郎家は代々立役で特に荒事を十八番として屋号は「成田屋」です。

歌舞伎役者は江戸時代では身分が低く扱われ苗字が無く各地へ公演移動をする時に不自由を伴った事から商人と見立て屋号を付けたと云われており、愛称として居住地や出身地と呼ばれたとも云えます。

芝居の上演中に大声で「掛け声」が遠くから聞こえますがこの時屋号が使われます。

これは「大向こう」と呼ばれ芝居を盛り上げる大事な演出で掛け声により役者の演技を褒め芝居を引き立てる事になるのです。

当日は「平成の海老蔵ブーム」に沸いて右・左寄り「掛け声」がある事と思いますので楽しんで下さい。

◆講演 “美術館という境界線”

愛知県美術館 館長 市川 政憲様
(紹介 油田君)



いま愛知県美術館では国吉康雄展を開催しています。国吉康雄は1889年岡岡で生まれ、17歳でアメリカに渡り、画家として身を立て1953年にニューヨークで亡くなりました。アメリカを代表する画家のひとり目されるまでに高く評価された国吉は差別的な移民法のためにアメリカ国籍を得られずに世を去りましたが、生前に高い評価と信望を得たのは誰よりもアメリカ人であったからでした。

日本人である固有性を自覚しながらアメリカで生きることを選んだのは他ならぬこのアメリカの理念の実現を信じたからでした。多民族の共存、それは来るべきアメリカの姿であって、裏を返せば大恐慌の苛酷な生存競争の現実には差別と偏見が渦巻いていました。自由と民主主義を謳うアメリカはWASP(アングロサクソン系プロテスタント)と呼ばれる人々が上層を占める階層社会でもあります。来るべきアメリカと現実が織りなす矛盾を生きるなかで国吉は一人の人間として、いのちの表象を追い求めた画家でした。

ところで、私たちはいのちを実感できているでしょうか。目先の欲望を刺激する物にあふれた世の中にあっては生きることに忙しく多くを生きようとするあまりに、いのちそのものを見失ってはいないでしょうか。そんな現代社会にいのちの回復のためにこそあるのが美術館であると私は考えます。

美術館には二つの顔があると思います。ひとつは社会的な機関として社会的に共有できる文化的な価値を作り出していく役割を担います。教育の一端を担い市民に学習の場を提供することは美術館が社会的な存在であることの必要条件と認識します。それは人間が社会的存在であることに対応した美術館の半面であります。

しかしそれが人間の、そして美術館のすべてではありません。私たちは社会の成員であると同時に社会と相容れざるまでに個人でもあり一人の人間でもあります。日々の生活を安楽に営むために人はそれぞれのいのちを抑えて社会生活をおくっていることも否定できません。社会人であると同時に個人でもあること、相反する二つの様態がバランスよく成立する社会こそ本当の意味で豊かな社会というものでしょう。この個々のいのちが回復される場としての美術館が認知されてこそ美術館は社会が文化的に成熟するための条件を十分に満たすことになるのだと思います。

◆ニコボックスは次回掲載と致します。

次回例会 平成16年10月5日(火) 講演 “名古屋のグランドデザインをつくった男 石川栄耀の物語”
OASIS都市研究所 代表 杉野 尚夫様(紹介 久野君)